

とちぶん会報

No.74

2023年12月15日

栃木県文芸家協会 発行人 福田 三男
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町16-18 三上 方

朝明第12号が発刊

朝明第12号(発行日:2024年1月1日)が、当初の予定どおり発行されました。発行部数は320部です。会員各位には同封したとおり2冊送付します。これから迎える年末年始、会員がペンを執った作品の数々にゆっくり目を通して味わっていただければと思います。

第12号が発行されたことにより、前号の第11号はバックナンバーとなり、作品を電子化(PDF化)して協会ホームページにアップロードされます。これによって、インターネット環境のある方はどこからでも朝明第11号の全作品を閲覧することが可能となります。電子化されたバックナンバーは第8号から始まり、これで合計4号分が閲覧可能となります。アップロードについては、ホームページのトピックスでお知らせいたします。

※ 追加注文のご案内

追加注文を希望する場合は、同封した合評会の出欠返信ハガキ、事務局へのeメール(アドレス:hmikami1@outlook.jp)・電話(090-9318-2492)のいずれかの方法でご注文ください。在庫がある限り先着順で承ります。完売が予想されますので、予めご注意ください。

朝明第12号への意見・感想について

朝明第12号へのご意見・ご感想をお寄せください。同封した合評会の出欠返信ハガキに書き添えていただくか、事務局へのeメール(アドレス:hmikami1@outlook.jp)でも構いません。

いただいたご意見等は、整理して来年1月14日(日)に開催する合評会において資料配付する予定です。次号編集への参考にもなりますので、よろしく願いいたします。

朝明第12号合評会・新春懇親会を開催します

朝明第12号合評会について、昨年到现在以下のとおり開催することとなりました。会員の積極的な参加をお願いいたします。

合評会終了後には4年ぶりの新春懇親会を催します。飲みながら、食べながら楽しく歓談したいと考えております。

- 日 時 令和6年1月14日(日) 午後1時30分～2時50分(合評会)
午後3時～4時30分(新春懇親会)

- 会 場 栃木県青年会館(コンセーレ) [宇都宮市駒生1-1-6/TEL 028(624)1417]
／JR宇都宮駅方面から関東バス「作新学院駒生」行きに乗車し「東中丸(コンセーレ前)バス停」下車 * 駐車場有り

- 会 費 新春懇親会 5,500円(当日支払い、無断キャンセルした場合は実費を請求します)

※ 同封した出欠の返信ハガキを1月9日(火)までに事務局あて必ず送付してください。

10月23日～24日に秋の懇親旅行を開催(南平台温泉ホテル)

コロナの影響により中止となっていた秋季懇親旅行を4年ぶりに企画し、10月23日(月)～24日(火)に無事開催しました。7名の会員が参加し、栃木県那珂川町の「馬頭温泉郷 南平台温泉ホテル」に宿泊しました。

初日は、最初に大田原市内の史跡である笠石神社を拝観し、伊藤宮司から、那須国造碑(なすのくにのみやつこのひ)についての詳細な説明を受けました。次に上・下侍塚古墳を見学し、発掘調査中の現場を見学させていただきました。その後、ホテルにチェックインし、アルカリ温泉入浴の後、特別のおもてなしとなった宴会・カラオケを満喫し、大いに盛り上がりました。

2日目は、黒羽芭蕉の館を見学し、今年度の夏季講演会で講師としてお世話になった新井敦史学芸員から、松尾芭蕉や黒羽藩のことについて丁寧な説明を受けました。その後、大雄寺を拝観し、前住職から国の重要文化財になっている本堂などの境内を案内していただきました。最後に那珂川町のなす風土記の丘資料館を見学しました。

旅行中の2日間は天気にも大変恵まれました。

第3回編集会議を開催、朝明第12号は校正・印刷へ

朝明第12号発行に係る第3回編集会議は、11月9日(木)午後3時から「おかりや」にて開催されました。6名の委員が出席しました。

印刷会社から届いた初校ゲラを各部門の編集委員に配付し、初校は各編集委員が分担して行いました。二校はすべて編集委員長が行って責了とすることが了承されました。表紙デザインについても最終確認が行われました。

会議終了後は、編集委員有志による懇親を深める会食を開催し、大いに盛り上がりました。

『創作への志』 会員通信 No.27 小説部門 寺崎 暁生

まがりなりにも歴史小説を書くには、当たり前だがその時代のことを調べなくてはならない。それは結構骨の折れる仕事なのだ。

まず、その時代のことが書いてあるものを探す。それらしい本を部屋に積んである埃を被った本の山のなかから引っ張り出す。ネットで検索したりする。それでも見つからなければ図書館で探してコピーする。時には現地に行ったりする。城跡を歩くとその時代のことを彷彿させる。

こうした一連の作業を経てから書き出すのだが、なかなか他にない楽しいことであるのは確かだ。

§ 寄贈書籍の紹介 §

○「裁ち板と土 昭和と平成をまるごと生きた一農夫の生涯」小林千枝子著

／発行所・株式会社文芸社／発行日・2023年10月15日[著者からの寄贈]

・嫁ぎ先の「家」のしがらみ、夫との死別、貧困を経て、女手ひとつで三人の子どもを育てあげた柿澤サキの生涯を軸に、昔ながらの「家」のあり方、家族観、高齢化社会など、家族がはらむ問題を描いた社会派小説。167ページ

○「詩集 里山ーイノシシのうた」貝塚津音魚著

／発行所・文化企画アオサギ／発行日・2023年9月30日[著者からの寄贈]

・著者の3冊目の詩集となる。里山の現場から、鎮魂と苦悩と風刺と魂の叫びが優しく響いてくる作品集。81ページ

○「那須の緒」(第20号 2023.9)

／発行所・貝塚津音魚／発行日・令和5年9月13日

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

会員各位、編集委員各位のご協力のおかげで、朝明第12号が発刊されました。作品数は前号より少なくなりましたが、会員が精力的にペンを執って書き進めた熱意の感じられるものばかりです。特集「再スタート」は読み応えのある文章が並んでおります。今までの人生を振り返りながら、将来を展望するいい機会になったのではないかと思います。

私事になりますが、テレビ朝日で11月18日(土)深夜に放映された番組「川柳9会 夜の部」に、人生で初めてテレビ出演しました。これは定年後の60歳からの川柳人生において、全く想定外の頗る緊張する経験でした。川柳愛者の振興、川柳愛好者の裾野の拡大のために、今後も更に奮闘していきます。(三上)